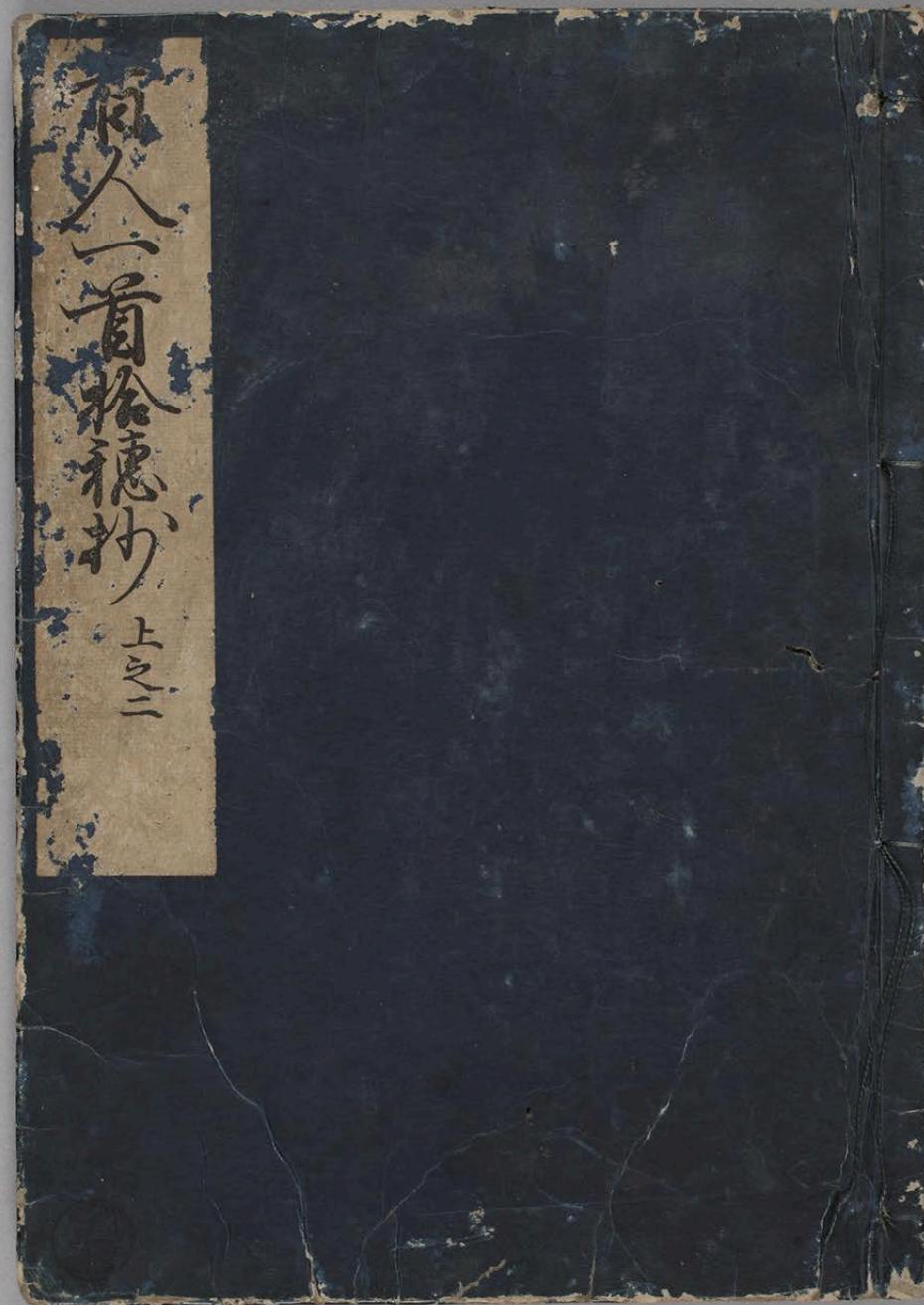


• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9



藤原敏行朝臣

能書哥人

清柳云南家祖氏智曇六代孫也從五位上村田孫按
察使陸奥守富士唐子也母紀名虎安云左中將右衛
門督大内記よりと從五位上云云拾芥物云至延喜七年
云云此時卒也。藤原姓姓氏錄云天智天皇八年始賜藤
原氏云云

愚案大藏冠錄足更中臣氏名源氏一賜有矣代至平之
等之又武智丸南家房前北家宇合三家吉磨京家四家相分タリ
は擬集乃事乃事乃化ちも。葉平乃妹のまなぐるあるゆ
に薄物薄いあり。字治於邊云とこもじつ一故り
とひよよみをもす底トク出ましれど是れびりこひ
うひくほ華経數百アリ云云

ナニヤガ三
夜に後三通

アトミタテ
マニ人目リ
弾チヨケル
ヤウニルノハ
トウルタヨトシ
タヤロ

古今事二寛平ノ内時ニモハ乃室の多合乃テ云

蓮の庵圓云。寛平ノ事、ハ度々始ま六七年九

寛平ハ宇多多喜等しげ亭乃后ハ七条后溫子なり

御乃后乃序よりは後も御子孫達より
後すくやといふんとての序よき。内局云。序ヨシ。御
後云。至るの引とくうへめをばす。御小やうよ道
子とわづか。近世多れ内子は難びみるのみ。かく
おもだまむ方自由ノカク。いそぐよ代也此事アリ
御さへ人の代もくろりゆあふも。やまとと高麗も自
由アリ。すすまよとたもとよとよも

伊勢力

信親ハ伊勢守恩所とあり。本物院は伊勢守也とあり。

古抄云。真夏四代孫大和守継サ彦女也。於恭云。伊勢
守恭原継院女也。伊勢家集云。ハナレの法門す。あ

アホん大うやちんとくねどもともも防局アト太
わゆアヌ新ヒム人アハクミ

異業をわう事と云。大吉思布トハセ魚后溫子なり典宮

於恭抄云。寛平法皇御恩所云。紹運錦云。行明親云。母
伊勢云。信親大和守也。伊勢守恩所云。之と云。也
人と伊勢所と云。袋牛云。能因院師兼房。車乃御
子のアテヤ。此あり。二条東明院。御子アリ。御
數町。御子アリ。兼房。御子アリ。能因院。信親。伊勢。御の家
ノ後シミ。伊勢の墓。右曾於。能因院。云。所
アリ。アリ。伊勢寺と云。アリ。

三ノ二

雅波ノ浦二生

セアク短イア

ノ宮ホドモ急
アニセラスコ

シテシマヘト云
コトガサテモ

ツレバカナ

元良親王

三品兵ア郷

佐竹云陽成院、牛上、皇子。母主殿頭遠長女也。立之不
物、死之兵也。死之兵也。大系局云天慶六年
七月廿六日薨云々。葵賀内藤久之子也。久之子也。
久之子也。李都主也。久之子也。久之子也。
久之子也。井枝井枝云々。或人云時代主曰要今は零れ
了めり。井枝井枝云々。

マニ名古元良義王あると何と云ふと云ふ事は
はあらうやうの事ありあらうと利口をすり。但ほ義
院常は傳ひて元良義王殊^ミ物^シ行^ス傳^ハ化^ス傳^ハ
あれども傳^ハる所^シは云ふ所^シと云ふ事^シ也^シ。

モロニコトヤ
モ身ヲモニタ
ソシテノハシ
モ三身ヲモニタ
モ二身ヲモニタ

秋 卫云之、皆以之為
かべのやうに 今もい
つまへる。死をも

總れも師範擧目する所の如き。實に大いに
其の如きを爲すが、必ずしも其の如きは
一切を心とし、今こそは師範全般なり。則と云ふ

タバツカリ無骨
ノホノ夜長ニ
二枚待ホド待
ホトオソイヌニ
13ノ月ガミモリ
出タワイ鶴来
セナシタ至四
月廿ヘ待タヒタ
ニリレニサマツ
ハサテモヘコヌ
コトカナゴトハマ
アドウシタコヅ

李性師

序。物云。通假子也。俗名玄利。云古傳。俗名舊時。云。紹運錄。云左近。將監清和天皇時殿上人。後出家住良因。

附記今えどりい人を待ひまくと明乃月と行出さるを
なりはれど云はれと命を待ひまくあれば

文屋康秀 ヤノマスヒコ 家文琳

著者の名は文琳也。著者名は文琳也。著者名は文琳也。
而折云先祖不見後もん部類云元長元年は縫殿
助古今集を阿豫を右経云防國院時人を享
眞名序云文琳エ詠物云假名序云トばくす
ト其の身よりはいと商人のよを経る
アトモ体秋

歌文野川序

トウリテ編者抄

ノ事不がアノ
ヤウニシレ
尤ナコトキ
ソレテ山ノ風
ラヌトキ

秋にあらへと
うとおちだり
の家の音が
あふふ聲
風と
アハ本があ
すあると
きりと
トは吹ぬうと云やうりひじべをむと云ふこもと
云うぬかド宜應諾山家セ云ひき方お云草木の
木見つまうり色乃はりうわれを山内とあり
云うんうむと云うりけあ山のまげ下山内と去
て嵐乃まうん云ひありあ流れ東く只よう
それと云ふと附記にあはれあり

大江千里

はお云大江音人子也音人を左京の平乃兄弟也
千里伊豫守正五位下或從五位下内蔵サ九作者
部類云延喜三年兵部太丞云於考内
大江氏或說云桓武天皇延喜九年冬十二月初
貞仲土師菅磨改其姓爲大枝朝臣是大江氏之始也

月ヲミル方六

イワトカニ懸

ナワオレキ

リノ秋テナ

ケド

月子れちぢるよ物、そゝ聲へなれわづ身ひの老林よあれを
古今秋上是負ひみとの家のえ合ひてこそくかよ
よみこす地あれはは御云數々手りやく此前を
と云故なり。仰迄いろ／＼わざみせんせしがうち薄
あらぬき古御云力も強く乃れをめざすと云
かとくもあみと表きるにまよひのすりすりが林も
天下万民乃くまくまくはるゝわき一身乃上の佑
乃やうりあづ／＼如ま／＼を仰迄力のみ
け乃事れすいひれ／＼さる／＼する／＼物坐／＼わすれ
らぬりすいひのじの林よはる／＼ねもわら身ひうのを
乃れ乃やう／＼あいゆす／＼のくわく
まくす物せし乃よす／＼わが身ひう乃幸松風也
墨林とす／＼す／＼す／＼す／＼人わり身ひうとす／＼
然ノ 燕子樓中霜月夜秋深只タタク一人長シテ白

二ノ六

大底四時心惣苦。耽中腸断。是秋天。白
官家 御名道真 宇三 仍号菅三 北野天滿神也

御抄云天穗日命天照太神，才二年十六代，孫菅原清
公孫參議從三位是善子也。母伴氏云系蜀云美和十
二年己丑誕生。貞觀十二年薦策及第宇多主侍讀
昌恭二年二月十四日任右大臣。元亨尺云云昌恭四
年正月廿日因左僕射藤時平之謫左遷太宰府都
督云系蜀云延喜三年二月廿五日於配所薨。宇
多苑寺寧樂寺。云多根源云天慶元年七月
記宣あり。古近馬場よびとれり。云
一条院正脅四年贈正一位大政大臣云拾芥抄云天神
御所高辻ハサカの西洞院東金巴疊水石云又云紅梅殿
五条坊門北町西小野川傍子ノ泉或天神泉

愚案とすりて仰ひあふ神 菅大臣とすり

又云菅原院、勘解由小路、南鳥丸西一町。本居宣長大治
房所。或云參議是善家也。云御述作の物和ら六

菅家彷集詩文

菅家文草

菅家後集

於草府詩文

菅家方葉詩奇

文德寶錄

諸儒考定

國史類聚三百卷

文選文集等乃且菅家乃はあり

菅家文草

年一

赤衡三年

于時

年十一

月夜見梅華と云ふと月運如晴雪梅華似照星

可憐金鏡轉庭上玉房馨

又天安二年子時而臘月

獨興と云詩

水封水面風無浪雪照林頭見有華乃有

はる郎詠ふをあり

元慶六年渤海國の使者來朝も

はる郎詠ふをあり

菅家とすりて菅家の武乃中よ大臣とすり

名公とれりえりとすの法と

推す

菅家とすりて菅家の武乃中よ大臣とすり

名公とれりえりとすの法と

推す

菅家じよ 菅家相とすり

菅原姓

古ノ

拟云天穗日命十四世乃孫野見局祖無仁

天皇御宇燐土師ノ姓十一世古人天平元年六

月廿五日改號

菅家姓

古今釋

生

院

古ノ人之清云乃竟なり菅家も大和ノ名居也

の御一冬の事
御の御事の御事
あともう一
も御用とセモ
も御山の御事
なれいに山を
おおふるえ
とし
神の御

御神ノリム向くと神ノリムにそは祭社
御意萬々心乃ちてと云ひて崇雅ち神意ノヤ
おれ乃ひえあらむ師法あらじも店奉乃侍奉
乃將まれたゞト下松乃ゆきそしりあつせび
向山ナヨイリマリヤロとて神ノリム一礼ナシ
あぐよなゆかうあく一考あひ乃御祭事
乃シシナレガこれとゆすとゆすとゆすとゆす
神をばくとゆすとゆすとゆすとゆすとゆす
礼事ナシナレナシナシナシナシナシナシ
アハモ感あらまわゆく一考
古と見玉くらうとくねもゆくとくねもゆく
どもゆくとくねもゆくとくねもゆくとく
乃ナリよぬうとくねもゆくとくねもゆくとく
乃ナリよぬうとくねもゆくとくねもゆくとく

三条右大臣

号寇方

御修寺元祖良門孫門大臣高藤公二男也。母宮内大輔弘
益女云。公て神任云。延長二年正月任右大臣。系圖云。乳平

二年八月四日薨。六十歲。一五七

名ニ肩、テ井ヒ
通リナラバ
故山キニカツ
シタクモチ
ヤ
ヤウヘシテ
ヌヤウ思入
ガヌルヤウ
シタクモチ
ナ

名ニ
松の落葉
松葉あらん
益女云。公て
三ノ八

貞信公
号惠平
於達集小一条太政大臣
男五条殿

忠信公良房孫昭宣云基姪四男也母禪正尹人康親王女也。九余右美相師輔父也云云系圖云元慶四年生延長年十一月廿一日天皇朱雀歸位詔令樞政秉平六年八月十九日太政大臣樞政覺元慶三年十一月為園曰天曆三年八月日薨。贈正一位謚曰貞信公封信濃國云。九条遺誠。貞信ム語云延長八年六月廿六日靈露清涼殿之時侍臣失毛吉心中歸依三室殊無所懼云。松邊難村序。院大井河不陵草。あからい草とあはれゆうじくろなむりとありせり。くのうのよ。參さんとおうへへへ。四葉と。お四葉といふ。いづれもこの中と云ふ。別院。高麗院。昌泰元年九月廿日大井川より高草よりよ。

出所ノカタハ序貫えあき。在古今考略。不和物語云。享和
乃事乃はともにあり。よしと大井にはまよひり。よ
み祭小食。よしと御。そらも。代。か。ま。り。ふ。く。と。
よし幸。も。あ。ん。よ。と。血。あ。る。多。よ。ち。ん。あ。う。あ。が。か。と
奉。よ。き。よ。す。ゆ。を。よ。ん。あ。く。よ。り。は。よ。く。よ。小。寫。山
ス。ね。お。ー。と。う。ん。あ。り。あ。う。が。く。く。か。う。き。く。登。
よ。あ。れ。ち。い。と。無。あ。る。ゆ。ち。り。と。て。大。井。よ。り。幸。と。え。
よ。め。き。の。あ。れ。ば。る。り。大。殘。す。あ。り。よ。幸。ち。延。モ。月
三。天。子。乃。ハ。リ。幸。院。乃。は。の。ち。方。擊。と。る。と。こ。ゆ。る。と。謂。を
川。寫。山。大。井。の。う。え。ま。り。よ。り。よ。り。よ。り。よ。り。よ。り。よ。り。
是。と。下。知。乃。ざ。ん。と。い。ア。よ。の。ち。よ。お。の。お。幸。ち。と。て
す。ア。ア。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
よ。の。と。

中納言兼輔

堤中約言

上
イツミタト

哥ち、傍奥ノ事のよきに長けり。ほんの序子も
はゞやうと其の御代やうに先取す。
中古とはみづくわきてなり。後、後茅生を主く
のぼるがよし。古より傳來され、其成
なり。上りもあり。是くほば成
る人乃らの手で作成する所と不序子の序

三光院。法院云。光孝し。宣孫。一品式ア。且忠親王。
子也。玄右京亮。

山里ノイツテモ
セビシイガタニ
ベツシテセニキ
ガエシタワニ

南院於苏移云是忠親主家主。是系焉。山里ノイツテモ
是忠義主ノ子ある。ゆきあまくとも

化志部類云天祐三月六日卒。

山里ノイツテモ
トナカカレト云
キヤガ金アハ
タマヘニミタ
人目モガレサシ
モカレタヨツテ
サカレタヒレ
トシトモ相思
思子意句
遠隔より

古今多歎。ナリシテヨリシテヨリ。先祖。山里ノイツテモ
モナリからくに人めかきだらひをあまうみんを
タマヘニミタ
人目モガレサシ
モカレタヨツテ
サカレタヒレ
トシトモ相思
思子意句
遠隔より

山里云。山里ノイツテモ四時了わ。されと表へを
川伊那ガモナリ。ある朝云。ヨリ。松も葉も雪の落す
ふとまのばく。人め代え侍る。草。山松。あの御殿裏
をもはきそく御す。おもむろに。山里ノイツテモ
下。山里云。あくま成く。木ハなふもみち。草木も枯れ。もろ人
目を経て。あくまで。三老院。山里ハ乃ハ乃
安多アラタモ。よしとほくべ。師云。山里ハ乃ハ乃
あくまで。わきく。を。が。侍。さ。ま。む。り。く。ま。

凡河内躬恒 先祖不詳 古今撰考一人也

三ノ十二

凡河内姓。日本紀云。天津彦根命。凡河内直山代直等
祖也云。御持云。古傳云。先祖不詳。宗祇云。行氏孫謡
利子云。古今序前甲斐小国云。厚隱行子。
唐厨子不頬。化志部類云。延喜廿一年正月晦。星淡
路。權祿。無明抄云。三条太相國。換。北。遠使別當。とゆ
る。付二条乃。神。二人躬恒。貫く。ふくと。淹
らか。う。や。ま。く。こ。れ。か。つ。く。く。あ。う。う。れ
かれど母。こ。ま。う。び。ま。と。あ。う。う。る。れ。う。神。ひ
く。く。ね。む。い。く。後。軒。う。か。う。れ。お。れ。う。後。軒。う
み。う。う。い。く。う。う。う。あ。う。う。躬。恒。と。う。あ。う。せ

アノヤウニ初
ガオイテ花マ
トヌヤラシ

五と
一初
二六

二七
二八

レスマウニミガ
ウテ三元良五

三
ノ
久
ミ
子

先祖不詳。傳所云。府主木工。先忠衛子。作考部類云。

朝カタサト
暁ニガレタ
トキニ有明
月ヲミタレ
シキリニアハ
レヲ儀シテ
アヘア日
夜ノ明ルニ
ラヌカホデア
ノヤウニジツト

從五位下安經子云。内松云。和泉太將定國隨身云。
大和物語 古今序右衛門府生云。近衛番長なり。唐
祖哥よちきやもしアササギリ。云。忠寧也。忠寧也
十條院於焉よ云。先師出羽刺史叙古今奇以自歸
云。先羽刺史も貴く也。さつせいかく。母子と師とと夫
ああれにまづくぞ。別ぢ曉がくうに物をば
古今立三題 立三題。唐松云。達無實立三題。按
蘇豫林もば不逢曉立トあり。曉ぢりとは梁雅
院ある。此もまじく云。後。おのちの入乃とへぬむりて
心成はく。くも人ちにけりかくしてとてぬむ。いづも
せんと立別れおゆき。乃乃月の衣を拂ふ。度
免はく。汝。やあや。け別ぢ曉がく。物よりく
とわら。而後云。大歎後ある。如云。けあじり
ちく乃孫子もぐいなれものなり。古今著字云。

ユルリトシテ

タマシ
四

カニコトカマド

キカツシテヨ

卷之三

カウ夜ノワ

キニ
バ

ウド有

月ノ弦ツタ

卷之三十一

ほ
ガフツタ

古今各々大いに風氣ある所は實力者も其と
並びて之れを云ひりまじは。良し明る所うなむ。
前明前智前日、前日ト出。高めち、後後云。前後皆の内
アヤシム四面白や。かく云うしてかく故あるがゆゑの事
ホノ姿をほほえ代力ウミとみんぐ方の月といふ
よきがくの代つけくみくち音。所詮ば吉跡重
にはひあり川あり草木までおりうらも陰せざる
正月の月乃らうく見えねどもとれりトやうよ月降
すれど雲むる故ひもひ何を何とす。草木もみ草く
染みてくれど。白くと云ふ事も叶わぬ事なりてす
を教りてきの事かと感へどもあしは新云々
乃る空氣はやくと云ふ事も叶わぬ事なりてす
めばまる。極あらゆる事とて吉跡の空とてす。空
とてす。空とてす。

とくにあつた。乃の月は四月降りたる雪

齊道列樹

山川ヘアレル
ガモテキテ
シガラミリカ
ケタトミツリ
山河ノ几ノ事ナム
作セシ物也。近頃才俊任。故守。子時文章生
古今枯下志。故乃レ誠。シトヨヒトモ
志賀。山越。は袖中物也。小向河内國。アホ。シトヨヒトモ

スニトマシテ
アルミキシ
ワライアハ
風が吹クテ
マリシテウヌ
キシガテ
セキカケく
ナガレチル
合ふ。志賀山越と云類説生りたり
哉。木は、序根、枝行ひと毛がくみ、水道あせ、いた
よりのままで、物が止。風乃もくろこて、みどり、日と、山と
あらびれ、でわれる。とくとくはあらぎ。五葉

後漢書
卷之三十一
列傳第十一
侯景傳

古物云。孝元天皇、皇子彦太忍^{ヒコノミコト}信命^{ミタケミコト}十九代の苗裔也。紀本通御室門檻^{ノシマツ}が補有明子^{アキメ}也。貫之從兄弟也。系傳亦於此古今序大門記云。古と集概む。

藤原魚風

トナイ

○歎小了砂山
乞の世物を承
あり一つふれ

ある頃小出
家とおりす
とこの子供
ことしやの娘
うの李
いふ合シカラ
と前後のお出

萬物にはよりたるのみの爲と爲れり。されどか
くより。實情よりよりなむ物し。而說云。やうほのうを
だらう。わざはなまはなまはなまに其生れあるべし。其
物内がゆるまある。わづにて身うみ身ゆれり。一
やうほはたはうちゆすうぬぬ。またうめうめ
財才友のれど、其じううもあはり。もともと
そなはよれり。友はよきともにわづにひきあそしか
れ。そなへしをひかるをもく。ひだり。一やうしよりいせ
どもるもよひいふ。なよやうおきよしれり。をゆく
ゆくをもく。わづあらへておとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと

紀貫之

古今探本第一也。五皇名阿古久曾_{アコシ}清_{キヨ}。

紀本道豫望行子云

愚案一說云文轉子長也。注甥也云。統子也。文轉子於惠渠乃他考之。天曆乃比乃人。考之。惟是統子。非是統孫。亦非是子。

古今序云御書所類云云延長八年土佐守任英
紀氏新撰序貫之撰云玄塞頭從丘位下云云作者部
類云天慶八年三月十八日任本二頭天慶九年卒云
古今序真名云先師柳木太丈云

恩賞賛えらへれとせばくに東へても其道以能其風
をうふ故ノ師ノ次ノ事。之に程々益々徳を施す
近代秀可云是家之作者賛え。哥也心かくさん
事も及べ。門はくく姿面白き。尤む好之。
余情妖艶乃徳也よびそれよりみか。其處れ
を受るともかくいふよけ述す。ゆゑしく云

ターデーも
ホーリー
人ハドウチヤヤ
ラ心モカハラヌカ
カソタカラレラ
ヌガナニシキ
トヨハ秋ノ花
カサワヒガキタ
ラニシタヤウ
ニ前カラタ直リ
ノ旬ニホカ今
アニホウリノ

あつむべく失つてア秀穂十首得て合せられ
八首人丸得。一首賛え得。云おおきい。次ノ和歌も實
うそしれど、やうすくは云ふ。或明所云賛えよ。本位
あれ家乃ぬち、勘解由小路よりも小路小路より車前云
人ちよ心もたゞ。失故つむかひを。ひづりノ音すよりいふ
古今より上。初歌ノよきはむかしにやうりむる人の家
ノ名をくや。とて引くとほりとほりとれども。能
渠のあやうづかひとくにむかんやうくもあらうと云ふ
高行方失れども。さういきててはあひ毒刀を残却
はれんれども。歌集云む。初歌の云ふ

お井家花を貰ひ、親意の事で手をひき、常は猪
山はまうをうそとひらへて西行。不知字。故てよ
者かうし、不なれぢかくいり。すのやう、御往云へん
もとつをもとづる香りをあれどとうたは
一あくをかくさるにやうじがはくある
といふ説成うあゆよことにはやうじを乃香のみ
ぞむすりほくを身負ひあねされどみよくはよがく
アリやんしかはくねも其便正等がを、
土佐日記云。十六日よつやくはくの故へのづれ便なるア
子らの山陽の小松乃事とよがり乃ぬうちかくしが
死がりゆき。うりへり、ころをくちづくねとくよる
え。げゆり、うるお似が侍り。賛えれどくよる

アリタ夏ノ

舊原姓天武天皇皇子舍人親王子御原王孫夏野
賜清原真人姓又式部王曾孫峯成賜清原生云云

賀清原姓
賀清原生云云
賀清原姓
賀清原生云云

錄

マタヨイノマ

卷之三

卷之三

經子

西ノ方ノ山マ

テイキツ

マハアルマード

丁巳
立

タマツ

卷之三

月の端へ

雲のどごみあ
新をうつる

新の経玉子山へ

卷之三

三
秋歸集

一
萬二
卷

刀
キウム
タ

ノラ
ニ
風
が
頻エ

二二

クレバヌキトメ

又
五
ガ
リ

文屋朝原

清原姓 天武天皇皇子舍人親王子御原王孫夏野
賜清原真人姓 又式部王曾孫岑成 賜清原生云云
正義 夏之於夏の秋云いの音の達小云是ハ納涼の事也
かず 例中へ筆者たんじゆる入暑り月盛夏 月也
の宮ノ以果報を月ハ雲つてあり陰ルトヨリ也と云ひ
申うちたかたまつてより月ハ雲つてあり陰ルトヨリ也と云ひ
考了したがふれ 阿也をあらわす林あ云てすすめ
○蓋後云ふと云ふ也是す。たゞ「みは有おひじうあとよ」若權しハ篠前ノ
やうな事と御おなまし。喜んで月持てて「一をもすす御おもひ」云ふ事も云ふ事
おもひすすめ。阿也をあらわす林あ云てすすめ。阿也をあらわす林あ云てすすめ。金持
きのいつこをやてての後一月陽ノとの形れも。ア只いつこのをすすめ
也といふ。ハア付り云
古今文類内乃井モ一スル者也私更喰してに漢子
要心もす。一宵なり。明めくとくは。たゞ人云
荷下る。力々面白本にす。宵なり。故めに夕地
並み。す。力々面白本にす。宵なり。故めに夕地

三ノ十八

月の夜の旅はあつた。やがて新宿へもどり、よ
月山の雪(假)も見ゆ。雲のどうかありやうで、
新宿を下るやうにやがて、やがて月山をとどめやう。
おまけに、月の旅はあつた。

たが云先祖不肖。延喜の年或記云延喜三年任大倉
人元云作者部類云文屋康秀子也。太膳少進仁
和後也云。
高麗の風の下さくれのハナムニとをねびておる
は柳林中。近所入清町也。あれハトシ。吹
きく。古云頬ノアリ。よしや開ノミシキとをねび
玉ち。高麗。日本ノシテ。ぬく物ナガチ。あ乃ち。茂めき
とえぬやう。見ゆ。もやだるあり。高麗も。而後草もあ
あびきて。ちれあの。草の起。これ。もやす。高の茎

アヨイ月ア
アツメ夏ノ

清原姓 天武天皇皇子舍人親王子御原王孫夢野
賜清原真人姓又式部王曾孫奉成賜清原生云

大系圖云舍人親王貞代王有雄通雄

賜清原姓

海雄房則深養父

云 惠葉通雄不見紹運錄

少物云先祖不見一說豐前守房則子云從立位下
内近允。壬壽藏人所雜色云。作者部類云筑前少
海雄孫豐前守房則子云大系骨肉云。井植物云
深喜父補陀落寺と小跡也。深喜父支子亦數故
山里として。ヤヌカトカシ申云 小野リ下註ナリ

テイキック
マアルマイガ
アノ賤モ
ドコラニマツ
タコトヤラ
五ノ月也。二月サヅノ刀ぬる候事。三月やどり
古今五教内乃おとス。ソリあれ更残して漢語
裏心もナミ。宵サヅノ明めくとは。ナムスニ
花がる。力ノ面白本にナミ。宵サヅノ明めく足地
をひく。ナムスニナムス。ナムスニナムス。月ノ月也。

三十九

秋ノ詩
ノ葉二百萬
オキワシタ
ノシ木が頻
リニイテ
タバコトノ
ヌ玉ガサハリ
トテルワイ
リナリ
月ノ月也。此乃乃清町也。あれハト
人元云作者部類云文屋康秀子也太膳サ進仁
和後也云

文屋朝原

未お云先祖不見。延喜以人或說云延喜三年任大舍
人元云作者部類云文屋康秀子也太膳サ進仁
和後也云

月ノ月也。此乃乃清町也。あれハト
人元云作者部類云文屋康秀子也太膳サ進仁
和後也云

あらすじは、まことにその如きが、次第
ではあるまいと見えぬと、後で、正面よりおこし

右近

本物云。右近少將季繩安^{アキラミ}。付季繩号^{アキラミ}。交野少將^{アキラミ}。作考部數也^{アキラミ}。藤原系圖云。眞作一三歲。

水村云右近少將季繩女
作考部數月之 藤原系房

藤原系圖

真作一三歲

トモカマバヌ
カリスレミイ
トチカフタ男
ノキガムセル
テアラフリカ
マアラシイコ
トカナ
トモカマバヌ
カリスレミイ
トチカフタ男
ノキガムセル
テアラフリカ
マアラシイコ
トカナ

三十九

防抄云。嵯峨天皇一也。源氏大納言弘孫中納之希子也。
義濃守左中弁勤解由長官。作者部類云多是。後中納
之。天曆五年三月十日薨。七十二歲。系譜云頭弁。

何トテはヤウ
二意レテフソ

おのれの本の言葉

とし

平氣盛
カ子モ

葬——退坐，自年八九，始負之不執，名
壬生，忠見。

暮——退坐^ス自午ノ房、拂負^トハ不孰^ミ。

先生忠見

申す。本名忠實、忠峯。思云。天徳二年任校スツ大
膳セイ。云。岱家也。子云忠見童名冬ヒトミ。又云。忠見幼少
乃所門裏より召あり。立。京物而難ハラシ。系之。由申
了行馬リヨウマ。不來て可系之。由有御定仍進此歌。
内ナカニはすも行てひよりけり。今ゆふをうより
ニニガタハシ
ヨリスルト云

知メコトヨア
宣モトハシテは言ひて云ひては速乃
モヤ。モヤノ名ニ立チタル。お云物也。リヤ
小アモダモトアリ。物也。云得。アレモ
人モ代シルアリ。モアリ。物也。モアモア
と云名乃ミ。モアリ。モアリ。モアリ。彼等
ちおもて。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。
トは。モアリ。比類。ナリ。モノ。深。一。極。ナ。ア。乃
歌。モアリ。モアリ。モアリ。三。度。宣。方。後。波。高。モアリ。モアリ。
莫。盛。ガ。ア。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。モアリ。

清原元輔

は皆集め多額の資本をもつて五人うち一人で

葉公可通類因
ハ借鑑之説

ト思フ時モラ
体ク風呂モ

父孫延忠子ニミ於恭云承祐三年六月卒于ナム

夫妻五人國

トイセセ彼右

今乃四人ノタニアシ能宣元備を主代の久

士モレベよ奇人すりヤ

カルマイシ

ハカハツタ

アミテイ未

トガカハツタ

ヨウモト幼木

二
フタリガニニ
三
派ヲガモテ
袖ヲモリ
イツマテモハ
カルマイシ
ハカハツタ
アミテイ未
トガカハツタ
ヨウモト幼木

ちギリキヒカニテイ袖モアリハ、來乃松山はモリハ
は松山にて立田山はモリハ、竹内氏新サノ全
アミテイ未
トガカハツタ
ヨウモト幼木

松山波ガニモアラヌ
さナコガ有テモアキモ松山
ヨウモトイフコ
ヤスリヤ手ニ
心カハルト云
は善ドニ
ナイナドハ
ヨウモト幼木

ちギリキヒカニテイ袖モアリハ、來乃松山はモリハ
は松山にて立田山はモリハ、竹内氏新サノ全
アミテイ未
トガカハツタ
ヨウモト幼木

は政あキタカ物云万紫玉男モトヨシモアリハ、後
わがくつて、お乃モモハ世もしくなんげえ力モ多
いひ我はのうんとよわりモアリモアハんと云

ハミタナ

二ノ左

タリアリ。皆くナレト云ば、アリレの心。男サ万紫
カ。袖中おもてり玉哥モト師役。カタナリナリ。之奥後
毛モテナラセのよ。シモカモモリモトモん
モナガシナリ。ナリカナリ。カタナリナリ。カタナ
カナリ。カタナリナリ。ナリ。袖山モトアリ。ナ
ちモテナリ。ナリ。アリ。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。ナ
リ。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。

拉申納ミ敷忠

アリタ

山高云。昭宣云。基經。孫奉院。左大臣特平云。三男毋
筑前守在原。棣梁女。敷忠母。始為大納言。因經
妻後嫁。時孚云。敷忠仍實。因經子也。
異案。今昔物語。不掌國經。乃某人也。因事あり

のち回強湯臭のあおりてひぬるに其生へはまざり
ひゞめ平ひへ進らる。もくば母乃脇ノイ敷也ねば
もれび可平乃きよて産うて取付平せよすうる。

一
ノ
ハ
キ
テ
ラ
ベ
テ
ミ
ニ
シ
カ
リ
四
区

古事記
久の補注云天正五年三月十九日叙從三位任管
中納言立云是年六月薨歿_{アツタク}敷島乃の在
みは下りあへりトテ於をハナスリ
あひ立てばのちのゆゑく所あれもしつれと物と與ハサ
拾遺集卷二題
久の補注切せむ心に御仕云人いよ。あまねく
ばあぐいしのうのうのうわきもふ心ひと
のゆゑくもくわきをあひみるらるねえん
を表す也。まことによしより。又立より人同、
すどらひくもくもく人の心もかほぐくよしよ

おみやげをうけた
あるのとおとこにさ
うでへなかれて云ふ

あらんがくやあらんとやのふうもと一あらうよ
と衣あいもとそもやがくおもひーち。歌ううね事ナリ
まわぬ事ナシとやううトモトおれは萬國々

中紀言教史

号^ス御門中納言

一
一
一

庚午
序。林三弟右大臣定方。二男。母中納言山薦女。從三位
右衛門督云。大和物候。之。御事。中納言。是。未。數
云。天。曆。之。多。淺。康。和。三。季。中。納。之。康。保。三。季。十二。

世ノ仲ニ男女ノ
通ト云フガトシ

トサナイ物ナニ
カツテ人ヲ恨

トイフコトモ我

於事中人をし厚も恨。丁度
其事天帝が御方令下す。猶
字助也。云。方云。公も。不連
矣。乃と。あらわせ。方と云。乃ち。中
よつて。と。ゆめり。はす。甲斐也。

乃あれもやがていしる。恨し本わらふ。东嘗縁云一
旦乃よきくさんうれし。曲がりまじせみやう徑て篠の
あらわは去乃ゆかといひゆがくに。やくといひゆ
うそはいぬなり。よしめでるまはこどりいと
轟破ちく云云。隔てゆかくにと云ひがはくと
心不けふとはや。筋引く乃を承りあらわすと
恨おそれむるに。あそ一交達ては中絶するも
ぬゆくも。ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか
ひかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか
わゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか
ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

謙德公

號伊尹公，於達一系，移政之。

古稱之。實傳云。孫九皋右第相師相公一男也。母武陵。

卷之四

守藤經邦父号威。云系譜云。天祐元年正月廿七日
任右大臣。同年十月十四日攝政。奉奉物語五月廿四日云。同年十一月二日正三位同月聽牛車。同年八
月以後煩惡瘡寢膳不妥。十月四日遣歲人頭舉賢。云里寧賜度者十八人。同年十一日依病上表辭攝政。年官復
同年十二月停攝政。餘官如元。十一月一日薨。四十九日送天
安寺五日矣。彼寺良邊。十日詔遣太納言正三位兼行
陸奥守。按察使源朝臣雅信參議正四位下行左大
介。或曰大輔備前權守源保光里寧贈正一位封參河
國爲參向公謚。曰謙德。云。方抑云。公厚深集。既
而一付無人。少將。云。和多所乃也。以也。謙也。云。
謙也。大好之臣。有子。而葬。一也。以也。必也。云。
一曰封。一也。仍。而。中古。少。不。也。必。葬。生。也。云。

秋月今處

デモハヒニ

フテクリツナ

人ノ覺子程

タツラニ死ハ

カナレイコトカ

ナ

あきれともりふづまくもおもひて身に付くも成ぬざま
松まへす。もの云き教をんがの厚はれちく付て
そしにあそび付りあれど云。剣もしよべき人をお
もひあは。とふ人便へを死もじふろ人をあれ
といひゆべからむ様の人のもいアハなまもれ
りはてとめと別れもあらうか死もせり人乃
幸いほだわのちをとぞされどもまことに死るもあ
れがすれどもと死どいおりよへまく人ち今ばれども
アラハは。ほんのまほはてはわづ身のみいづぐと死
ぬふるゆくとぞあらうか死れども

翁の称好忠

号曾歎

内有云先祖名祥、寛わびくや、但母後擇、治方郊
數日く、嘗て子云之母も母厚徳也而故也至

三十九

四
クリスエト

シラヌ命ガギ

リノミトキ

カナマア

故豆のまは
いす
さとおとじねもあ
ありよみつれをま
たをとし
を心をやりてたゞ
き夢の

母厚徳も厚徳母厚徳も厚徳も厚徳も厚徳
やは時好之歌云いはソタといれんをくん云
シトナルトヨラ
由良乃と云はる承人徳と事としひ清も生じ玉たみら
新古今正一題
里也。別の事と云ふ。大晦を清れ母の徳ならんはた
お清うぢふづきうじ。も詠り。わが立教の下の
才をもじやくいもももももじよ
ありともあたらくいゆく。御良の後とつらが
師徳云。じみはわづももじゆももももももももも
をうけりとやとゆきうわせといふうふううううう
れなり

惠慶法師

内有云先祖不匱、寛わびく人情廉固、隸仰云是歎

七言八章合

二三
カニケツテナ

卷之九

172

ノリマサ

三十九

おほく、墨葉ひつじの園、いはゆる守成とれ護仰
諸侯と張つた、むち、延喜式より
八重海岸高社殿や。そのそばに人、いそかね松ちよまう
於生一葉松。河原院にてあれよも。樹ノ松木ると云ふ
をくじよみあがめりて云
河原院於恭朝云六条坊門、南万里小路、東八町云。鰐大屋家東
六条院と号す。東禪閣傍院河原左大臣六条は、京ノ子、子家
は、うぐいすをうり水賀をく。毎月うし潮と云ふ。うらうらとび
今海鹿ノイ奥風波と云ふ。是れ東海奥玉垣庵ノうし波
うしにては、生毛屋庵ノイモウ波とく。波江まれとく。原瀬
河原院賦云他放鯨鯢山住虎狼葉錦映水鷺鷺副也云。左朝文辨
御註云。行去きて心事一あそへ。鰐ノ事く。方學事も
多けやう。昔ニ生秋ね林乃ミテ。四猿あれと
こぼりたる。一とくあらわすとくいふ。河原院の昔も

やういはくもくはなとは見ゆる。三光院山後びさ
ひそにのみす三重りづき。や。ハ。ミ。シ。ム。の。と。ち
を。ま。ね。や。ほ。く。の。そ。く。り。と。母。脚。か。れ。て。よ。う。く。も。は。く。ま
し。て。踏。う。よ。の。わ。い。キ。う。く。れ。そ。く。く。あ。く。る。と。二。重
く。み。く。一。と。と。聞。う。れ。そ。れ。お。の。く。じ。あ。う。
く。み。く。そ。れ。そ。れ。お。の。く。じ。あ。う。
う。く。み。く。そ。れ。そ。れ。お。の。く。じ。あ。う。

源之

方翁云。清和原氏。貞元親王。寧國院孫。從立位下。兼佐子也。兼佐兄。多後兼佐子。ごなる三公。從立位下相模守左馬脚。冷泉院。一方不動。一方不動。方の事。加者長保二年。ノイ奥列。ノイ辛夷。化為數株茶。

物業譜序之說

186
カツヨサニ
岩三古手ヅル
波ノ辟ルタニ
サキノ人ハ氣
ヨウテコチ分
リレクリタケ
ニシテラス
ルコトガ

風といふ者とはほの事のみか。をかう物と思ふ。序
詞を兼てて。吟府院左近とす。もと歌百首の事
筆あれ。後も云内といひは内にいきまくと云
物乃ちくと云はばなむといひ。左近は。三元院は後
し。ばのゆきと川とよみをやせん。三元院は後
はち。わきと初く物をはなべて。こをあそびて
わきてくをも。仍て風といふと云ふ。わきの
物代めし。もとをもじと。もじねう。御注云。初
がよ。次代もくよ。と。と。と。と。と。と。と。と。
ク身す。左近。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
わやうに。の。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

